

夏休み自由研究（地方病）学習会

一元教師がポイントをアドバイスー



7月12日（日）、地方病に関わる自由研究の学習会を杉浦醫院2階和室で行いました。地方病教育推進研究会の遠藤美樹さん（代表・事務局長）に講師をしていただきました。

出席者は、常永小、西条小、玉穂南小、梨大付属中から6人の児童、生徒が集まり学習を深めました。

まずは、私が館内を案内しながら杉浦醫院の概要などを説明しました、そして遠藤先生にバトンタッチ！

遠藤先生は、「地方病について知ろう」と、病気の症状や地方病の歴史について説明し、「地方病撲滅の歴史は山梨県が世界に誇れるものです」と話しました。

次に、題（テーマ・タイトル）の例を提示します。例えば、「地方病とはどんな病気」「地方病との戦いの歴史」「ホタルが消えた町」「山梨県の地方病と他県を比べると」「海外への支援」「大村博士とノーベル賞」など。

次は、自由研究の構成を教えます。1題（タイトル） 2選んだ理由 3調べる内容や方法 4調べた結果 5まとめ（感想） 6参考にしたもの。また、調べる方法例も教えます。インターネット、図書館、おじいちゃんおばあちゃんに聞く、身の回りの調査（記念碑、溝渠プレート）、新聞記事、杉浦醫院への取材など・・・。

子どもたちも真剣に、時には質問も出て、充実した学習会でした。



『地方病を語り継ごうー流行終息宣言から25年ー』

改訂増刷版 編集作業順調に進む！

ー秋には再出版ー

2022年3月、杉浦醫院で編集し、昭和町教育委員会で発行した『地方病を語り継ごうー流行終息宣言から25年ー』ですが、多くは、県内小中学校、公立図書館、町内関係機関などに寄贈しました。残りの500冊余りは、もうすでに完売しました。

販売が好調の一つの要因は、2024年度から、東京目黒区にある「目黒寄生虫館」で本書を取り扱っていただいていることです。寄生虫館の倉持館長さんも『地方病を語り継ごう』の本は、多くの来館者に興味、関心を持っていただいています！」と伝えてくれました。余談ですが、目黒寄生虫館には数年前にビル・

ゲイツ氏が来館し大きな話題になり、近年は年間7万人余りの来館者があり、若者のデートコースになっているとのこと。

本『地方病を語り継ごう』の内容を少し紹介します

第1章「地方病体験記」

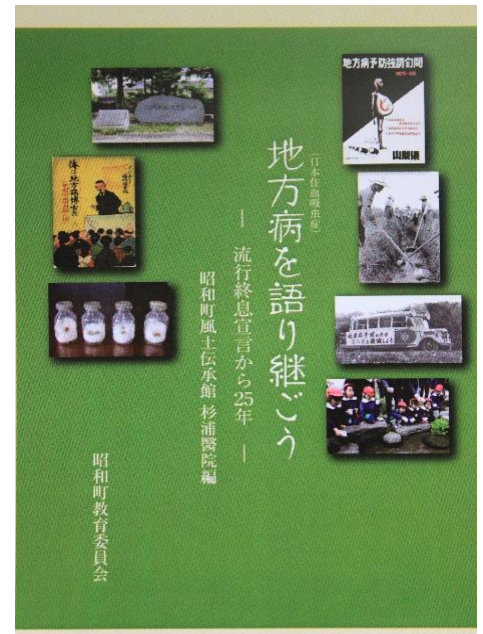
- ・48人の体験記（地方病に関わる体験、記憶、提言など）が掲載されています。
- ・「地方病に罹患」「ホテルの記憶」「撲滅の最前線」「杉浦醫院との関わり」「未来に向けて」といった項目に分けてあります。
- ・昭和町民から19人、続いて中央市、南アルプス市、甲府市、笛吹市、甲斐市、北杜市など多くの地域から体験談を寄せていただきました。

第2章「寄稿文」

- ・以下の8人の方々から文章を寄せていただきました。
- ・加茂悦爾（巨摩共立病院名誉院長）、林正高（元市立甲府病院神経内科医長：故人）、薬袋勝（元県衛生公害研究所副所長）、梶原徳昭（元県衛生公害研究所職員）、小畑茂雄（県立博物館学芸員）、小野渉（ウィキペディア「地方病」執筆者）、橘田活子（『茶碗の欠片』著者）、中野良男（前杉浦醫院館長）

第3章「資料編」

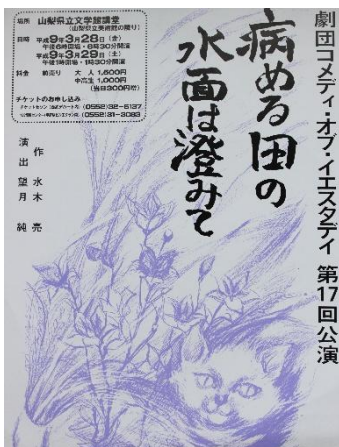
- ・地方病に関わる主な出来事などを記した地方病関連年表
- ・杉浦健造、三郎父子の略歴を記した年表
- ・地方病関係の資料館の紹介
「昭和町風土伝承館 杉浦醫院」「県立博物館」「県立富士湧水の里水族館」「宮入慶之助記念館」「目黒寄生虫館」 ※杉山なか紀徳碑（盛岩寺）
- ・杉浦醫院蔵書、資料、書籍、学術書、県関係資料、教育関係資料、映像資料など。



今回 新たに

「13人の体験記（口述筆記）と2人の寄稿者」を追加

- ・体験記は、昭和町4人、南アルプス市5人、中央市2人、甲府市1人、甲斐市1人、計13人の体験談を掲載しました。
- ・昭和町の4人は以下の方々です。



戯曲のチラシ

「井口孝裕さん（西条）篠原頼子さん（西条）塚原ミユキさん（西条新田）保坂紀子さん（西条新田）」

- ・寄稿者については、地方病に深く関わった水木亮氏（劇作家）宮本和子氏（山梨大学大学院教授）のお二人の方から「寄稿文」を寄せていただきました。劇作家の水木亮氏は、戯曲「病める田の水面は澄みて」（平成9年）や小説「笛吹川」（平成24年）など地方病を題材とした作品に関わった方であり、宮本和子氏は、現在カンボジアでのタイ肝吸虫の予防対策に現地に出向き、住民主体の予防活動に取り組んでいる方です。

現在、編集作業も順調に進み、10月下旬頃には「改訂増刷版」という形で再出版の予定です。

